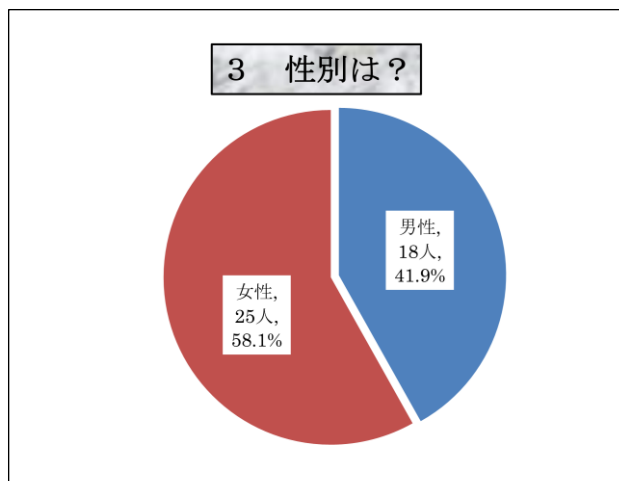
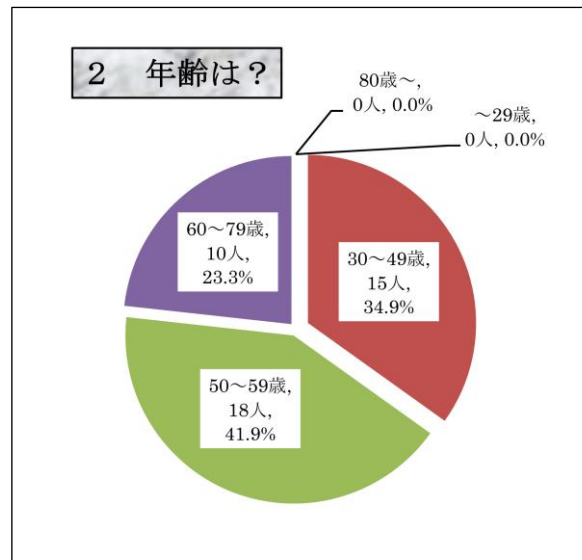
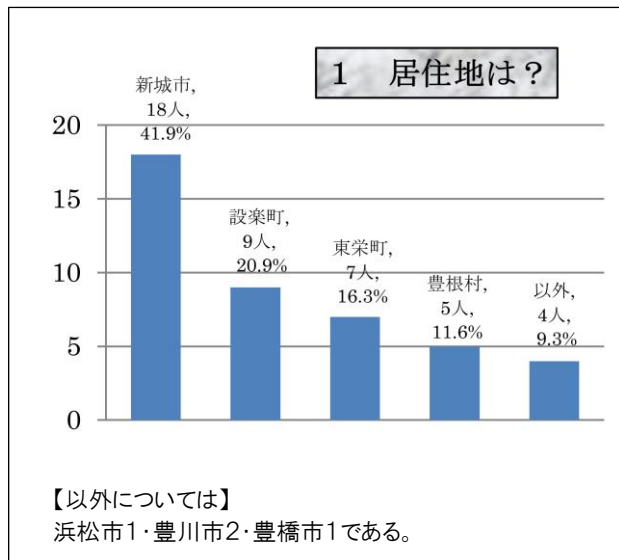


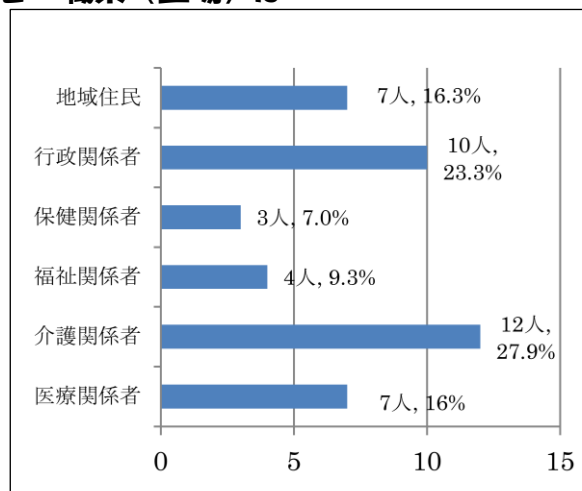
第3回 健康・医療に関するシンポジウムアンケート集計

開催日	平成25年12月 1日(日)
開催場所	設楽町田口特産物振興センター 多目的ホール
開催テーマ	介護について
参加者数	65名
回収率	66.2% (アンケート回答者43名)

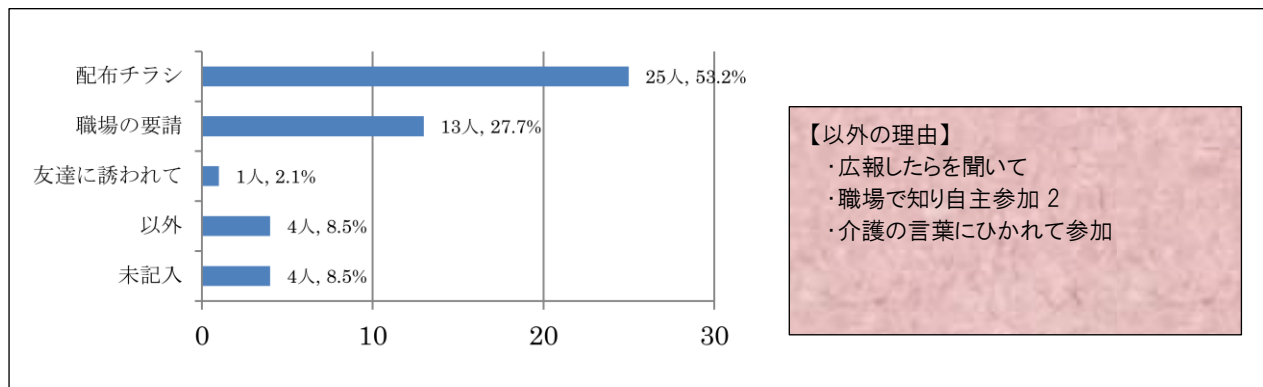
1 あなたの



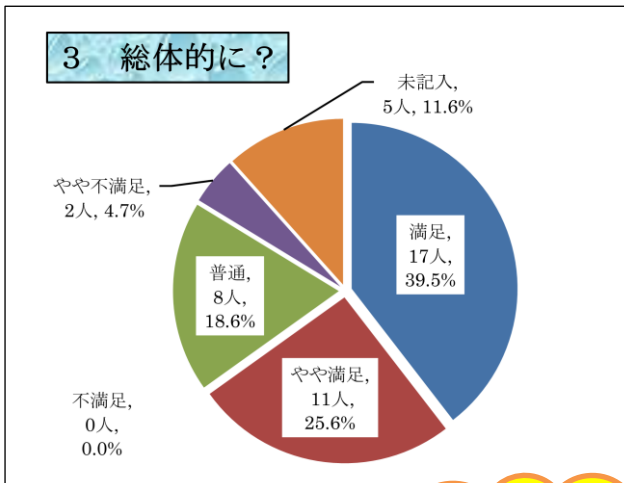
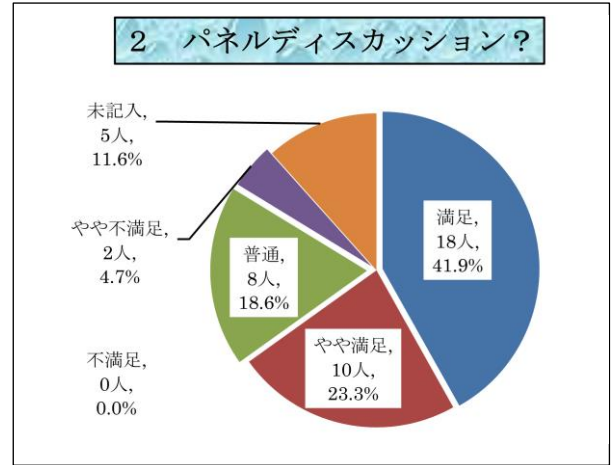
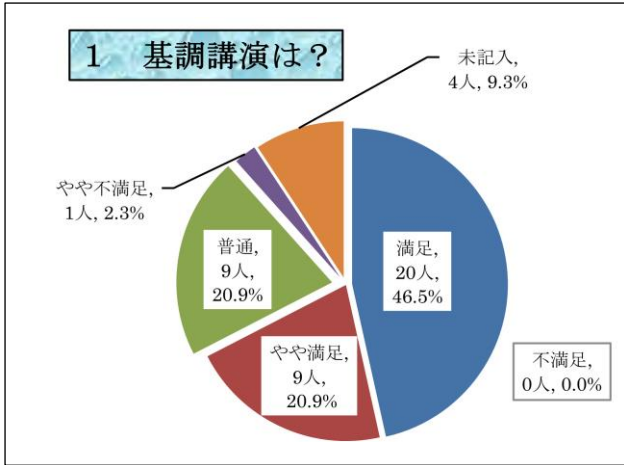
2 職業(立場)は？



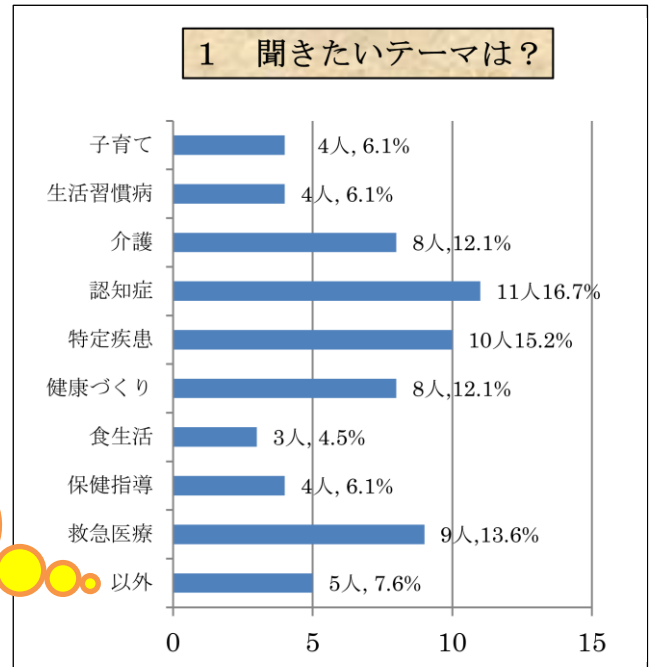
3 出席の動機は？



4 講演会の感想は

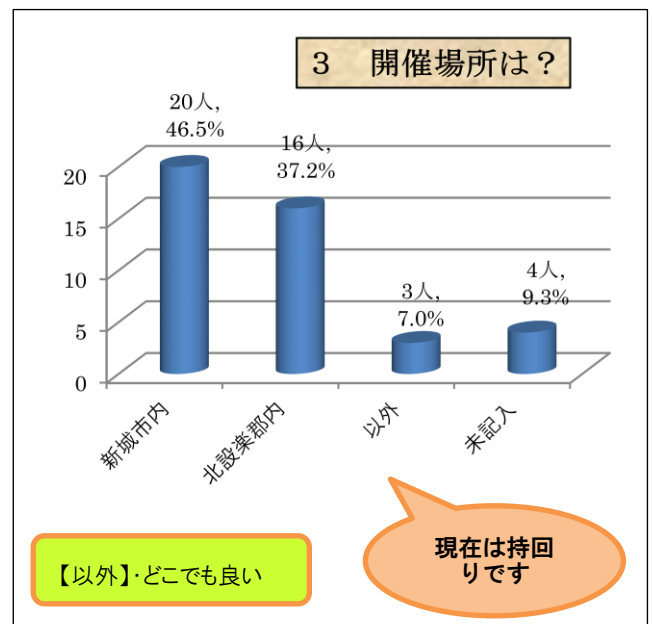
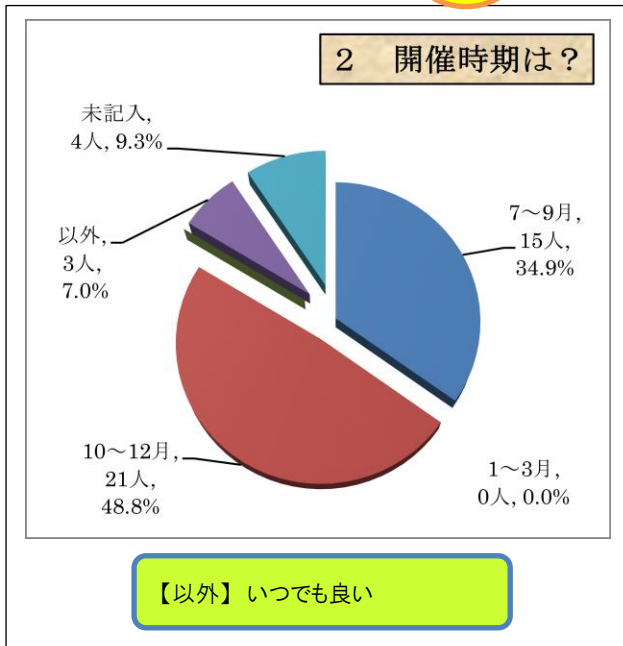


5 次回計画するとしたら



【以外】

- ・世代間交流と介護予防
- ・将来的な各町村の行方
- ・ボランティアの現状
- ・社会保障費の削減
- ・看取り、在宅



6 御意見・ご要望がありましたら

<p>・年1回、こうした会が開かれるということが定着していくと良いと思います。介護はこの地域の大きな課題ですが、地域の中で様々な形で様々な考えを持って頑張っている、ということが分かりました。</p>
<p>・とても勉強になりました。これからのヒントをたくさんいただきました。</p>
<p>・「今後の介護」につられて参加させていただきましたが、お話の内容がとても難しい……………、でも現状がぼんやりでも解りました。いくつになっても自立の為への努力が必要！“金無し、場所無し”</p>
<p>・一般の住民の方の参加がもっと増えると良いと思います。そのためには、一般の方も分かりやすい内容も必要だと思います。</p>
<p>・ご苦労様でした。北設の医療現状は厳しい状況です。地域の全体問題として解決していきたいと思います。</p>
<p>・各行政圏域を超えた協力、連携体制</p>
<p>・介護を1つ考えても、行政、福祉、医療すべてが深く関わっており（当たり前ですが）何から手を付けると良くなるのか分からなくなります。萩原さんの講演で、ますます危機感を持ちました。私は何をしたらいいのかな～と考えています。</p>
<p>・東三河が一つとなって各市町村への医師の派遣が可能となるよう努めてほしい。</p>
<p>・家族の関わり（同居していない子ども）</p>
<p>・プロジェクターは、もっとルーメン（明るさ）類の大きいものを使ってください。参加者全員が良い視力の持ち主の年代とは限りません。資料配布のない説明をされるのならなおさらです。説明者が心血を注いだ説明資料は配布された方がいいのでは。後で活かしますので。</p>
<p>・もう少し早目の事前のPRが必要だと思いました。（参加者が少ない）</p>
<p>・これからの介護保険がどう進んでいくことが真に住民の為になるかを考えさせられるシンポジウムでした。とても参考になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・設楽町の発表、手元に資料が欲しかったです。表、グラフが見えなかったです。内容が濃くいろいろ勉強になりました。地域での生活を支援するにあたって、役場（行政）、専門家、医療が市町村の枠を超えて連携することの大切さを知りました。「その人らしく生活、生き抜く為にできることは…………」</p>
<p>・いつまでも元気で、自分の事は自分で。</p>
<p>・今回のようなすばらしい会において、参加者の呼び掛けですが地域づくりの為の医師、区長、民生委員、地域住民等にもご参加いただき、チームづくり、計画、できる所から実施していくことが大切ではないでしょうか。高齢者の方、認知症の方……………どんな状況状態のおいても何かの役に立ちたいと思いが伝わってくる方が多いと感じております。自立支援で介護支援をさせて頂きたいと考えています。今日半日、大事なお時間をありがとうございました。</p>
<p>・高齢者に接するボランティアとして、利用者の価値観を尊重できる（一目で在宅は無理と思える事でも）支援を連携事業所と構築していきたい。</p>
<p>・基調講演の内容は濃かったが、時間配分が惜しかった。自分なりに知恵をしぼる事。</p>
<p>・もっともっと沢山の人が集まってもらいたいし、行政（担当部署以外）の人に現場の実態を知るために参加してほしい。</p>
<p>・色々勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・時間があれば、グループワークがあっても良いのでは……………と思いました。ありがとうございました。</p>

介護と聞いて今思いつくキーワードは？

シンポジウム開始前の意見	→	シンポジウム終了後の意見
・老老介護		・地域力を高める
・予防		・つながり・地域
・おたのしみ		・地域の将来像
・支援 食事、入浴、着替え、金銭管理、意思決定、移乗など。日常生活で、できなくなったところを他の人が支える、手助けする。		・支える人は、家族、地域、ボランティア、専門家、
・お金		
・自宅で最後まで無事に過ごせる知力・体力が持ち続ける事が出来るだろうか。		
・人 — 本人、相手、周りの人（支える人）		
・必要な現状と課題		・地域の将来像をオール東栄で
・必要とされる方への支援と受け入れ施設充実等、環境整備		
・介護で思い出す場面 歩きまわる認知症の老人 困り果てる家族		
・心は一つ		
・老老介護、家族		
・家族の将来不安、パーソナリティ障害のある社会人（老人）が増えた。		・理想の障害となると思う。首長さんは、社会環境を見直してほしい。
・支える		
・徘徊等認知症が進み困っている家族		・高齢者自身の意思の尊重（何をしたいか）
・家族地域が一体となって介護支援する。		
・暗く先が長く苦勞する。		・みんなが一人の介護者に関わり楽しく生活していく
・支え合いが必要 サービスの整備←行政		・人と人とのつながり。一人一人が持つ力をつなげた仕組みづくり。みんなに関わることの必要性。
・マンパワー、在宅		
・エンドレス、老老介護		・ゆりかご～墓場までずっと介護予防が可能
・連携、地域づくり、人材育成、地域に合った方法		
・受け身、予防を、家族いるいない、世間の目		
・現状、課題、目標、計画、具体的な介護作業		
・介護…家族、親族、医療、福祉、家、地域、環境、行政、ボランティア、保険、心、言葉、見守り、支援		
・高齢者、老老介護		
・介護とは、避けて通れないものであるが、連携や協力（重要）が得られれば実践できる。		・その人らしさ、それぞれが出来ることをしながら、最後まで自分らしく〈お互いの事〉が出来るように。いつかは誰でも死を迎える立場で。
・在宅		・教育 高齢者は子供でも喜ぶとあったが、反対に子どもにも高齢者を知る機会が必要です。
・マンパワー不足、財政不足		・医療と介護の切れ目ないつながり、地域とのつながり、家族とのつながり
・親子、家族の関係、各との意向の明確な表示、個々の意思関係者の意思の尊重、終末期を終えた後の残される思い教訓。		・個々の生き方を尊重する有効な方法を考える。このような会により多く一般の方が参加してもらえることが大切と思いました。
・今後介護支援できる〇〇の力が↓		・地域、家族、行政、医療、福祉のネットワークが鍵

以上、貴重な意見を頂きました。